令和3（2021）年「正覚寺報」5月号

◆お 知 ら せ◆お 知 ら せ

コロナ変異株蔓延が案ぜられるさなかです。用心深く、大切なご法座は、きちんとマスクをし、自ら管理し、心して営ませて戴きましょう。

記

① **仏教壮年会お聴聞の会**（5月2日（日）20時）

② **仏教婦人会例会**（5月16日(日)19時半）

◆お法（みの）りをお尋ね戴くご縁に遇う

滋賀組の仏教婦人会では、三年毎に役員様が交替になられ、その都度、熱心な役員の皆様とお会いすることになります。

ところが、この度は新型コロナに用心して、三密をさけるためそれもままならず、御電話は頂戴しましたが、お会いすることは控えねばならず、寂しいことだと思っておりました。

会長様も同じ御心配のお気持ちから、ご挨拶はさておき、この機会に、「親鸞聖人のお法り」をお聞かせ戴きたいとのお気持ちで足を運んで戴いたのです。これは、親鸞聖人のお法りに直参するお姿になる訳ですから、住職にとっても是程有り難い機会はありません。

親鸞聖人のお法りとは何か。第一に、本願力回向のみ教えであります。「浄土願生の行者が自らの功徳を衆生の皆様に差し向け、衆生と自らが共にお浄土に参らせて戴きましょう」というのが曇鸞大師の浄土論註のご法義でしたが、親鸞聖人は、回向の主は、阿弥陀如来であると明らかにして下さったのです。

本願力回向には、往相回向と還相回向とがあると親鸞聖人からお聞かせ戴くところですが、当面の課題は、「往相回向」にあります。

往相回向の「教行信証」の「行」は「大行（**「大行」とは、則ち無碍光如来の名を称するなり**）」であり、衆生にとり「回向された称名を実践することは、衆生の上でお名号が働いて下さるお姿ですから、自力にはなりません。

また、「大行」の行いのしぶりを示すものが「大信」（その中核が「信楽」＝おおせのままに）であります。

如来様が「さあ、称えてごらん」と願っていて下さるのですから、「さようか」とお称えする姿が「大信」だったのです。

そのとき、既に、「疑わない」とする「信心」の姿は、具足していたとしても、称名の結果としてお聞かせに与る「勅命」をお聞かせに与る「聞名」は、まだ明らかではありません。

如来様の仰せのままにお称えするとき、第十七願の諸仏如来の称名讃嘆のお心に習って、衆生は、「南無阿弥陀佛」の尊さを仰ぐことになります。衆生にとり讃嘆は虞れ多くとも、尊さを仰ぐ「讃仰」はお許し戴けるところです。（**阿弥陀佛の御名をきき、歓喜讃仰せしむれば**（Ref『讃阿弥陀佛偈和讃第三十首』）。

大行を称えるとき、衆生の身の上には、直ちに大行が働いて下さり、「南無阿弥陀仏」とお聞かせに与るのです。それは、**「汝一心正念にして直ちに来たれ」**との如来様の**「本願招喚の勅命」**だったのです。

勅命を聞いて聞いて聞き抜くとき、衆生は、三昧の境地に導かれ、「聞こえて下さるまんま」が如来様そのお方のお喚び声だったとお聞かせに与るのです。聞こえて下さるまんまに信を頂戴する**「聞即信」**こそが信心を頂戴する姿になるのであります。合掌。（ご案内：正覚寺のホームページは、**「正覚寺　北小松」**でヒットする「FC2」）からお入り戴けます）